

大崎産

ハウスマンゴー

ただいま出荷中！



マンゴー栽培風景

大崎町では、県内本土でいち早くハウスマンゴーの栽培を始め、現在は、14戸の農家が144アールで栽培しています。収穫時期は6月までとなっており、東京や名古屋、大阪、九州市場などに約12・5トンを出荷する予定です。

このハウスマンゴーは、アーウィンという品種で、開花期から肥大期にかけて好天に恵まれ、生育は順調で着色は良好、糖度も16度以上の完熟に仕上がっていて、木に掛けたネットに自然落下したものをだけ収穫します。

そのハウスマンゴー収穫祭が4月13日に谷迫集落の中水流明治さんの農園で行われ、その鹿児島農協の方々、町長、その他たくさんの方々が出席されました。現在、その鹿児島農協果樹部会中晩柑専門部会の会長に就かれている中水流さ



園主の中水流 明治さん・恵子さん

んは、昭和48年から果樹栽培を始め、計画的にビニールハウスを増設され、昭和63年には、施設面積75アールにまで規模拡大されました。

施設面積拡大にともない、早期出荷のできる堂脇早生や宮川早生の品種構成配分による経営安定に努めていらつしやいます。

また、マンゴーはハウスみかん収穫前に出荷できることから、平成13年に導入され、今年度初着果となり、日々、栽培管理・品質向上などに努めていらつしやいます。

収穫祭では、テープカットが行われたあと、園主の中水流さん夫婦、来賓の方々が赤く熟したマンゴーを収穫しました。